



2026年3月期の業績は、期首想定を上回る水準で推移している。前期からの繰り越し分を含む豊富な手持ち工事が順調だ。引き続き受注時の採算管理を徹底し、適正

## 道路舗装

### 日本道路 石井 敏行社長

な価格や工期を反映した契約に努める。26年度に最終年度を迎える中期経営計画の目標達成を目指していく。

工事部門では、国土強靭化や防衛施設、高速道路などの官公庁案件に期待する。製造販売部門では、アスファルト合材の価格転嫁を粘り強く交渉していく。使用済みペットボトルや漁網などをリサイクルした舗装材など環境工法の

揮できるようになつた。工事では、従来のJV組成にとらわれない戦略的な受注調整や案件共有が可能になる。建築

苦戦していた海外事業の立て直しも急務だ。建設事業から先行し、バングラデシュやインドネシアへの進出を進め

清水建設の全額出資子会社となつたことで、グループシナジー（相乗効果）がより発揮できるようになつた。工事

人工芝や弾性舗装材の開発を手掛けるアストロスポーツを買収した。私立学校施設の陸上競技トラックや人工芝グラウンドなど、スポーツ施設の整備・改修工事で受注拡大を目指す。

## スポーツ施設や再生材注力

人工芝や弾性舗装材の開発を手掛けるアストロスポーツを買収した。私立学校施設の陸上競技トラックや人工芝グラウンドなどを、スポーツ施設の整備・改修工事で受注拡大を目指す。